

【基調講演】行政にできること ～札幌市の取組から～

札幌市困難を抱える 若年女性支援事業 LiNK

札幌市子ども未来局子ども育成部子ども企画課 馬場 通江



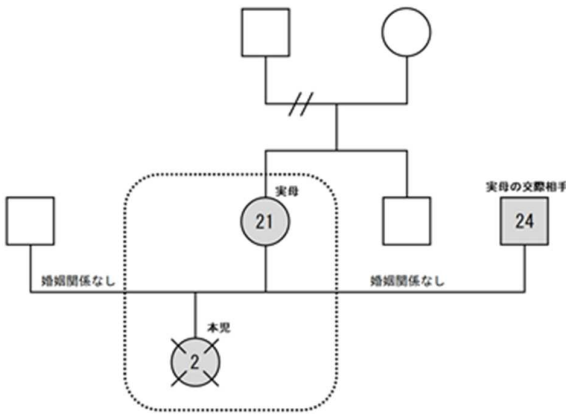
1 札幌市が困難を抱える若年女性支援事業を実施する経緯



(1) 令和元年6月2歳女児死亡事例

平成26年4月(15歳)	高校入学(翌年から休学)
平成27年12月(17歳)	妊娠が判明するも、交際相手から暴力を受け、翌年1月人工妊娠中絶を行う
平成28年6月(18歳)	妊娠が判明
平成28年12月(18歳)	出産
令和元年6月5日(21歳)	女児死亡確認
令和元年6月6日(21歳)	逮捕
令和元年7月18日(21歳)	保護責任者遺棄致死罪で起訴

(関係図)



1 札幌市が困難を抱える若年女性支援事業を実施する経緯



(2)「令和元年6月死亡事例に係る検証報告書」による検証と提言

課題を踏まえた7つの提言

1 区及び生活圏を単位とした支援体制の強化の必要性
2 母子保健体制の見直し、乳幼児健診の改善の必要性
3 アセスメントと支援方針の共有を軸とする協働体制の構築と進行管理の徹底の必要性
4 児童相談所における介入機能と役割の明確化の必要性
5 専門的力量を持つ職員を育成する体制の構築
6 思春期・若年期に焦点を当てた支援の枠組みの必要性
7 過去の検証報告書の進捗状況についての検証機会の必要性

2

1 札幌市が困難を抱える若年女性支援事業を実施する経緯



(3) 検証報告書より抜粋

本事例では、10代から20代に差し掛かるに当たり、妊娠・人工妊娠中絶、交際相手との関係や精神的な不調、高等学校の入学・休学や就労の問題など、10代後半の女性として見られる様々な諸課題が見られるが、これらへの対応が十分に図られることはなかった。その要因として、この思春期・若年期に焦点を当てた支援の枠組みが、市はもとより、国の施策としても不足しているのが実情である。例を挙げると、

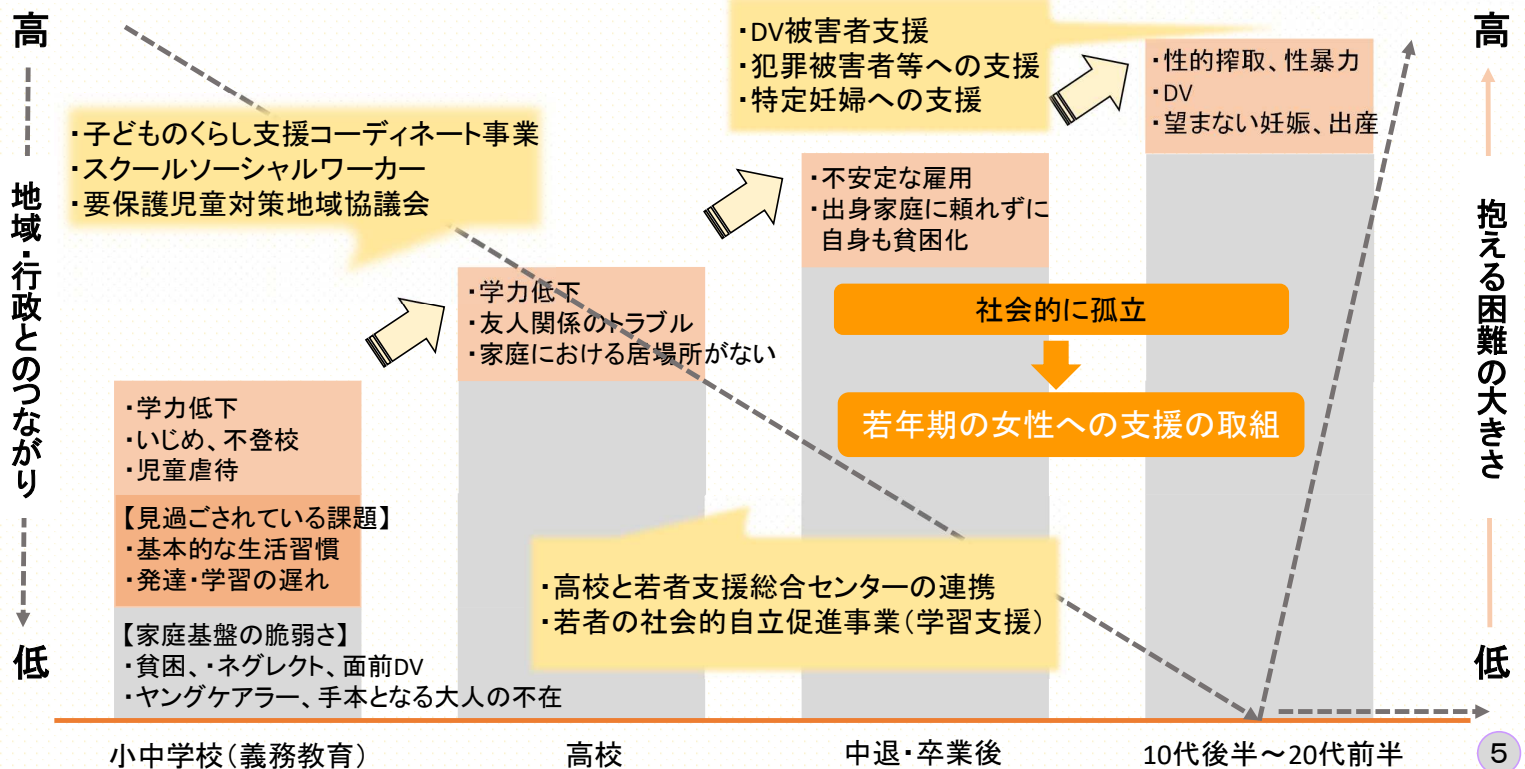
- ・児童福祉法に基づく支援は18歳未満という年齢制限の実態が、
- ・DV被害者支援は、DV相談を訴えた方への支援が中心となるという事態が、
- ・母子保健分野の支援は、本事例のように妊婦の方しか支援できないという実態がそれぞれあり、これらに該当しない方は、制度の網の目からこぼれ落ちている。

3

2 困難のイメージと札幌市における現状の取組



2 困難のイメージと札幌市における現状の取組



3 札幌市内の有識者・支援者の思い

■ 専門家、公的機関、支援団体など多くの関係者から、現状や課題を伺った

■ 若年女性へのアウトリーチの活動も大事だが、まずは見つけてきた女性をどこにつなげるのかという「つなぎ先」をどうするのかを考えるのが重要

■ 屋根のある場所の支援が重要。母子生活支援施設の活用や乳児院における母子一緒にのケアなど、既存の建物があるところで支援できれば良いのだが。

■ 児童福祉法は18歳までという縛りがある。それ以上の女性達への支援は児童相談所での対応は難しい。

■ 児童相談所としても、児相案件になる手前で支援できる受け皿があれば助かる。

■ 居場所ができるのは良いと思う。子どもたちは、不安な気持ちや手続きへの自信のなさを含めて「めんどくさい」という言葉を使う。居場所に各関係機関が来てくれるような仕組みがあると子どもたちにとっては良いだろう。

■ 求められている、居場所があるといった理由で、援助交際する子どもも多い。

警察

■ 居場所の確保が難しいのでは。家に帰りたくないという相談を受けても、対応は難しい。もし、居場所を確保するとしても、ルール作りをどうするか、未成年の場合どうするか、居場所で自殺が起こる危険性はないかなど課題がある。

■ 現状は、こういう女性達を支援できるスキルを持った支援者が少ない。

■ 妊娠段階で入所できる施設が必要だと考えている。妊婦を受け入れるためには、看護師の配置が必要であるため、自立援助ホームなどでの対応が難しい。

■ 大事なものは「人」と「予算」。

■ 若い人の傾向として、関係性を分断されず、自由も担保され、一息つけるやどり木のような場所があれば集まってくる。

■ 対象となる子どもは、自分から困りごとを相談しに来ないので、わいわい集える場所を作り、そこで何度も接しながら愚痴や叫びを聞きながら、困りごとをすくいあげていく必要がある。

4 札幌市若年期の女性を対象とした支援に関する実態調査

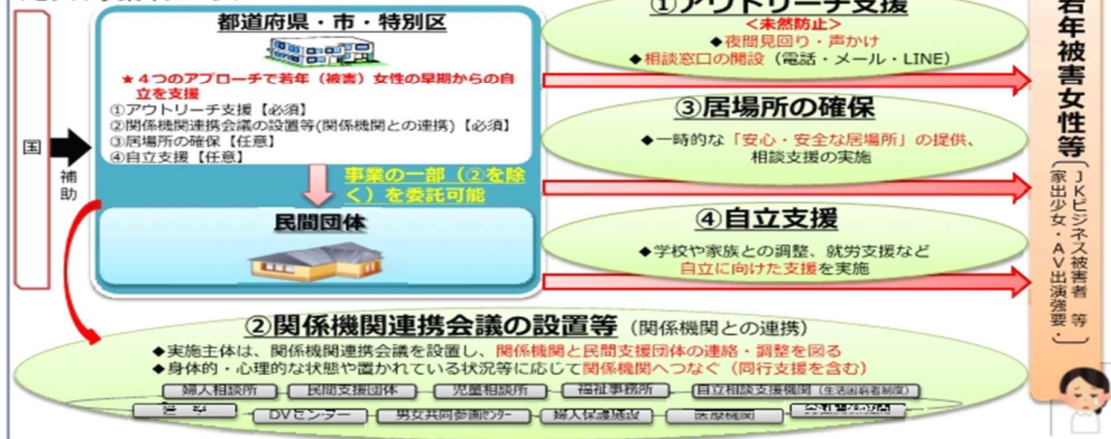
【通し番号21】

若年被害女性等支援モデル事業

令和元年度予算169億円の内数 → 令和2年度概算要求217億円の内数
(児童虐待・DV対策等総合支援事業)

◆ 困難を抱えた女性については、個々のケースに応じた細やかな支援を行うことにより早期の自立支援が可能となることから、若年被害女性等に対して、公的機関・施設と民間支援団体とが密接に連携し、アウトリーチから居場所の確保、公的機関や施設への「つなぎ」を含めたアプローチを行う仕組みを構築するためのモデル事業を実施する。
＜実施主体＞ 都道府県・市・特別区 ＜補助率＞ 国10/10 ＜1か所当たりの補助基準額(案)＞ 10,860千円(①～④全て実施)

＜モデル事業イメージ＞



4 札幌市若年期の女性を対象とした支援に関する実態調査

■若年期の女性を対象とした支援に関するヒアリング等調査

(1)調査の概要

- ・調査期間 令和2年10月12日～令和2年12月8日
- ・調査対象者 ①支援団体 6団体 ②女性当事者(困難な経験がある女性) 4名

①支援団体	団体概要	②女性当事者	対象者概要
団体A	若年女性を主対象として支援活動を行っている法人。	Aさん	・20代。 ・児童養護施設での生活歴あり。 ・高校中退後、夜の仕事に就く。 ・現在は結婚し、3児の母。
団体B	DV等の被害に遭った女性等への支援を行っている法人。		
団体C	市内高等学校養護教諭。	Bさん	・20代。 ・両親が学費を出してくれなかったため、様々なアルバイトをして学費を賄う。 ・高校卒業後、夜の仕事に就く。 ・現在は1児の母。
団体D	若年層の女性が気軽に相談できるLINE相談の運営を行ってきた法人。		
団体E	未成年の緊急一時避難所(シェルター)を開設、運営している法人。	Cさん	・40代。 ・定時制高校中退後、夜の仕事に就く。 ・その後、介護の資格を取得したことを契機に現在の福祉の仕事に就く。 ・自身の経験を踏まえて、女性支援団体による若年女性支援の活動にも参加。
団体F	少年院出院者を対象とした相談対応、少年院への講話活動を行っている団体。		
		Dさん	・10代大学生。 ・家族との折り合いが悪く、家に居場所がないと感じている。 ・援助交際をしており、心療内科に通院。

8

4 札幌市若年期の女性を対象とした支援に関する実態調査

(2)調査結果の概要(困難を抱える女性について)

○家族との関係や家庭の状況に問題を抱えていた

- ・両親はお金にルーズでいつも喧嘩をしていた ・経済的な困窮により、必要なものは万引きをしていた
- ・父は24時間お酒をのんでいた ・母が姉妹間で扱いを差別し、自分だけご飯やお弁当が無いこともあった
- ・心の病気を患っていた母からは「気持ち悪い」と言われ、幼いころ抱きしめてもらった記憶は無い

○妊娠、中絶、援助交際など性の問題を抱えていた

- ・高1でネットで知り合った人と付き合い、妊娠。その後中絶をした
- ・夜の仕事は優しい大人もいたが、暴力団関係者も多く、自分の置かれた状況を読み間違えると大変なことになる
- ・ヒアリング対象者中4名中3名が未成年でキャバクラやデリヘルなどの性風俗、3名が援助交際の経験があった

○困っているという意識がなかった

- ・子どもの頃からの(困難な)体験から、耐性がついている
- ・困っているという意識を持たないので、相談しようとは思わない
- ・「自分が困難な状態か、問題なくしっかりやれている状態なのかわからず不安を抱えている。」

○不安、自己否定感を持っている

- ・「自分を大切にする」、「『幸せ』や『満たされていること』がどういうことかわからない。常に不安を感じている。」
- ・「『自己肯定感が低い』のではなく『自己否定感』を強く持っている。」

9

4 札幌市若年期の女性を対象とした支援に関する実態調査



(2)調査結果の概要(支援について)

- アウトリーチについて
 - ・「SNSで見ず知らずの人に相談できない」、「仲良くなるまではLINEがいい」などの声があるため、多様なコミュニケーション手段が必要になる
- 居場所について
 - ・長期の居場所や、長期的に生活支援を行うための拠点となる施設が札幌市にはない
 - ・安心して寝泊まりできる場所が必要だが、規則が多いと窮屈に感じて使われない
 - ・既存の自立支援施設には空きがない
- 自立支援について
 - ・障がいが疑われる人やグレーゾーンにいる人、発達障がいの人も多いため、自立をサポートする仕組みが必要
 - ・自立には、居場所、住居、仕事を紹介するためのネットワークが必要だが、現在は支援者の個人的な人脈に頼らざるを得ない
- 行政に求めること
 - ・支援には高い専門性が求められるため、人材育成のほかにも、支援者として働き続けられる経済的基盤が必要
 - ・必要なのは精神論ではなく「お金」、どこの団体もお金で苦労している
 - ・福祉的支援の核となるのは安定した住居なので、公営住宅の活用やシェアハウス型共同住宅の設置が必要
 - ・制度のはざまにいる女性が多いため、ワンストップ型の相談窓口が必要

4 札幌市若年期の女性を対象とした支援に関する実態調査



■ 思春期・若年期の女性を対象とした意識に関する調査(アンケート調査)

(1)調査の概要

- ①調査期間
令和2年12月13日～令和3年1月4日
- ②調査実施
 - ・高等学校、高等支援学校的女子生徒及び19歳～24歳の札幌市内に居住する女性を対象として、思春期・若年期の女性がどのような困りごとや悩みを抱えており、その困りごとや悩みをどの程度周囲に相談できているのかを把握することを目的に実施。
 - ・調査は、札幌市と北海道大学大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センターが共同で実施。



	①公立高等学校女子生徒	②公立高等支援学校女子生徒	③一般女性
調査対象者	18,769名 (令和2年5月1日時点)	153名 (令和2年5月1日時点)	3,000名 (住民基本台帳から抽出)
回収率	781名 (回収率:4.2%)	55名 (回収率:36.0%)	836名 (回収率:27.9%)
調査方法	WEB回答	無記名によるアンケート方式	無記名によるアンケート方式 WEB回答

4 札幌市若年期の女性を対象とした支援に関する実態調査

(2)調査結果 学校での体験について

- 学校での嫌な体験については、1度以上あると答えた者の割合は7割前後。
- セクハラや性被害は1～2割前後である一方で、セクハラ・性被害が起きる場合は、教師とのトラブルやいじめ、人間関係のトラブルも同時に起きている場合もある。
- そうした嫌な体験をしても、高等学校と一般女性では4割の者は相談していなかった。

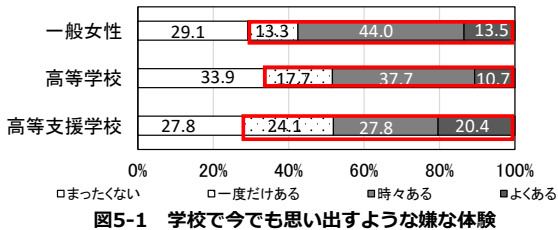


図5-1 学校で今でも思い出すような嫌な体験

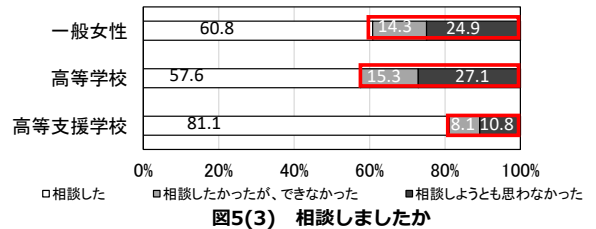


図5(3) 相談しましたか

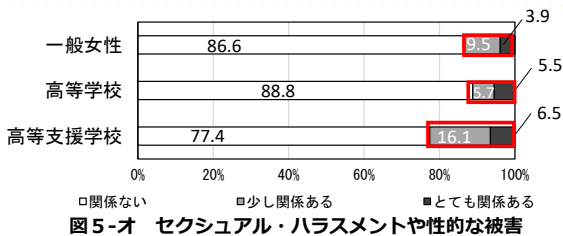


図5-オ セクシュアル・ハラスメントや性的な被害

4 札幌市若年期の女性を対象とした支援に関する実態調査

(3)調査結果 子ども時代に過ごした家庭での体験について

- 家庭での嫌な体験については、1度以上あると答えた者の割合は4～5割。
- 家計の問題が他の全ての問題(例:両親の不仲、両親間での暴力など)にも関連していた。
- 家庭で嫌な体験をしていると、他の状況においても嫌な体験をしている傾向がみられた。
- そうした嫌な体験をした者であっても、高等学校と一般女性の7割は相談していなかった。

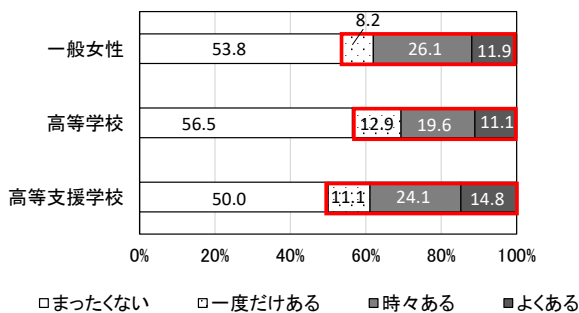


図6-1 家庭で今でも思い出すような嫌な体験

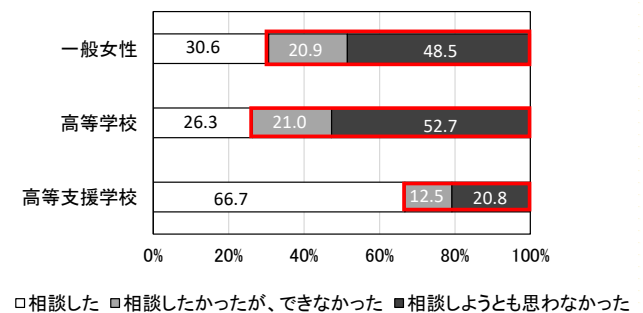


図6(3) 相談しましたか

4 札幌市若年期の女性を対象とした支援に関する実態調査

(4)調査結果 職場・アルバイト先での体験について

- 職場・アルバイト先での嫌な体験については、一般女性で約6割の者が1度以上あると答えていた。
- 内容については、いじめ以外の人間関係のトラブル、パワハラが多い。
- そうした嫌な体験をしても、一般女性の約3割の者が相談していなかった。

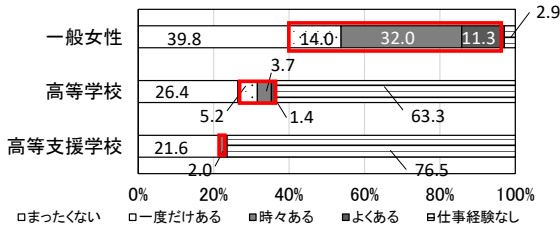


図7-1 職場で今でも思い出するような嫌な体験

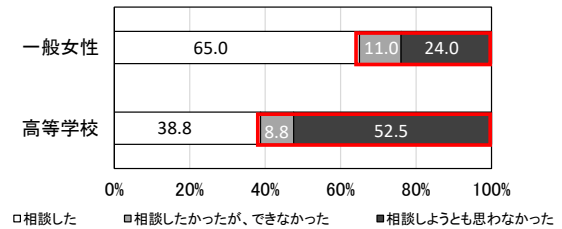


図7(3) 相談しましたか

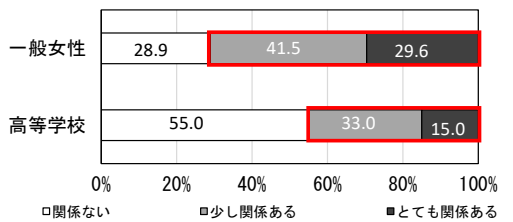


図7-イ いじめ以外の人間関係のトラブル

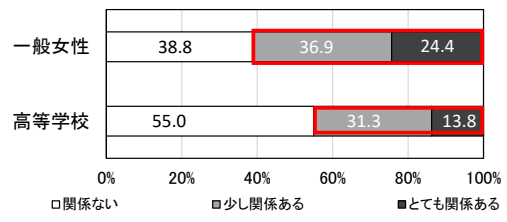


図7-ウ 上司・同僚からのパワハラ

4 札幌市若年期の女性を対象とした支援に関する実態調査

(5)調査結果 結婚・交際相手との関係での体験について

- 結婚・交際相手との関係での嫌な体験については、1度以上あると答えた者の割合は一般女性で約3割、高等学校で約2割、高等支援学校で約1割であった。
- 一般女性における結婚・交際相手との関係での嫌な体験で最も多いのは、相手からの物理的・精神的な支配で約5割、次いで金銭的な問題で4割弱、セクハラ・性被害と望まない性行為・妊娠がそれぞれ約2割。
- そうした嫌な体験をしても、一般女性では4割弱、高等学校で5割強の者が相談していなかった。

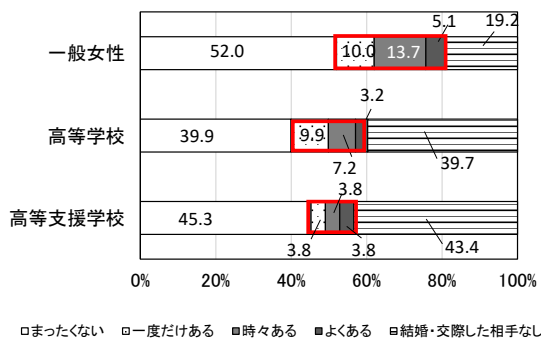


図8(1) 結婚・交際相手との関係で今でも思い出するような嫌な体験

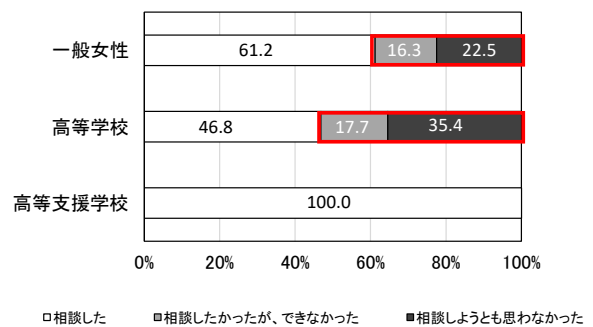


図8(3) 相談しましたか

4 札幌市若年期の女性を対象とした支援に関する実態調査



(6)(抜粋)相談相手について

- 相談相手に関しては、いずれの相談も親や友人が選ばれることが多く、公的な相談機関が選ばれることは少なかった。
- 相談相手や頼れる人がいないことについて不安があると答えた割合は、一般女性では2割弱、高等学校、高等支援学校では2割。

		学校			家庭			結婚・交際相手		
		まったく ない	少した した	たくさん した	まったく ない	少した した	たくさん した	まったく ない	少した した	たくさん した
親	高等支援学校	22.2%	22.2%	55.6%	38.5%	23.1%	38.5%		33.3%	66.7%
	高等学校	16.7%	33.7%	49.7%	47.7%	29.5%	22.7%	54.1%	24.3%	21.6%
	一般女性	16.5%	32.2%	51.3%	44.8%	31.4%	23.8%	44.2%	32.6%	23.3%
友人	高等支援学校	39.1%	43.5%	17.4%	83.3%	8.3%	8.3%	40.0%	20.0%	40.0%
	高等学校	18.2%	40.1%	41.8%	34.1%	36.4%	29.5%	11.0%	28.8%	60.3%
	一般女性	20.0%	40.3%	39.7%	24.1%	55.6%	20.4%	6.7%	35.1%	58.2%
公的な 相談機 関	高等支援学校	88.9%	11.1%		90.0%		10.0%	100.0%		
	高等学校	93.8%	5.5%	0.7%	88.4%	4.7%	7.0%	94.5%	5.5%	
	一般女性	95.6%	3.4%	0.9%	93.1%	4.9%	2.0%	95.7%	0.9%	3.4%

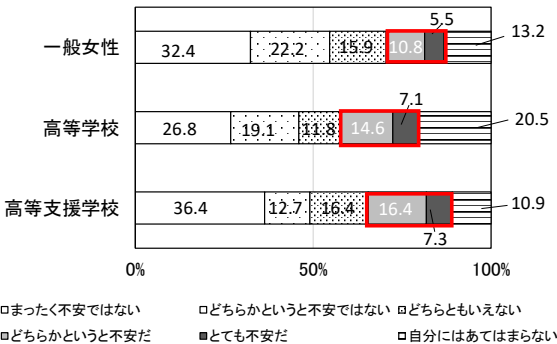


図3-9 相談相手や頼れる人がいないこと

4 札幌市若年期の女性を対象とした支援に関する実態調査



(7)自由記述 10人以上が共通して使用していた単語に絞って分析を行い、下記のグループでまとめた。

「仕事」「大変」「働く」「影響」「コロナ」「お金」「生活」

「コロナの影響で給与が下がる、経済的にとても不安。」「母は亡くなり、父は障がいがあり働いていない。義務教育が終わってからずっとお金で苦労している。」「友人も経済的に不安を感じ、身を売って仕事をしていると聞いた。」「自分の進路のことで家計が圧迫されていると聞くと、どうしようもない気持ちになる。」

「親」「相談」「受ける」「大学」「少ない」

「母親と母親の交際相手からお金を搾取され続ける生活から逃げたい。」「家族間で嫌なことをされたとき逃げる先を知らない。」「親から向けられる期待や愛情が重くて苦しい場合に頼れる場所がないのが少ししんどい。」「家族が学生時代にSNSを通じて相手を募集した援助交際でつかまり、成人してから風俗で働き始めた。」「ひとり親世帯への就業先や支援がもう少し強いものであれば、母も生きやすくなるのに。」「シングルマザーなどの人々に対しての支援を意識的にしていただけるとありがたい。」「学生の頃、モラハラ、DVの男性とつきあったことがあり、親にも友人にも誰にも相談できずに辛かった時期があった。あのとき、支援を受けられる所を知っていて、助けを求められれば良かった。」「気軽に相談できる人、LINEのように気軽にチャット相談できる窓口が普及すれば良い。」「本当に死んでしまいたくなった時、(さまざまな相談機関にアクセスしたが)繋がったためしがない。確実につながれる相談窓口を設けてほしい。」「働きながら学生をしているが、金銭的に親に頼れず、昼の仕事に加えて夜の仕事も兼業しながら勉強している状況が辛い。」「学生への支援が少ない。」

「家族」「知る」「女の子」「関係」「分かる」「少し」「周り」「気」「問題」「行く」「嫌」「友達」「良い」

「異性の友人から長年にわたりセクハラを受けていた。今もPTSDのような症状がある。」「いじめの影響のせいか恋人も友人の事も信用できない。」「小学校から大学まで体を触られたり、見た目を貶められたりされた。」

「悪い」「学校」「職場」「女性」「支援」「アンケート」「困る」

「具体的に正しい性教育を学校で行うべきだ。」「学校側ではLGBTQやセクマイの配慮が全くない。」「女性であることが時々くるしい。」「(アンケート用紙に)支援の方法を考えていくと書いてあるが、私たちに具体的などんな支援があるのか知らされないのでしょうか。」「意識を変えるための取組を行わないと根本的には解決しない。」

「死ぬ」「つらい」「気持ち」「生きる」

「周期的に漠然とした不安感、自分には全く価値がない、容姿が酷すぎて外に出られない、死にたいような気持ちになり涙が止まらない。」「死にたいと思うことがよくある。」「児童養護施設が辛い。」

「不安」「今」「出来る」「怖い」

「就職活動が不安で仕方がない。」「(両親が)離婚調停中で不安、財産分与で学費がなくなりそうと勉強が面倒になった。」「地下鉄で痴漢にあった経験があり、一駅でもとても長く感じた。今(※)は満員電車にはない状況で安心できるが、元通りになった時にどう避ければ良いのか不安。」(※)コロナ禍で「生きている理由がわからない状態で、ずっと暗闇を歩いているみたいで、毎日漠然とした不安がある。」

(1) 事業の概要

様々な困難を抱えながらも地域や行政とのつながりのない若年女性を対象としたアウトリーチ型支援等の実施。

【事業の対象】

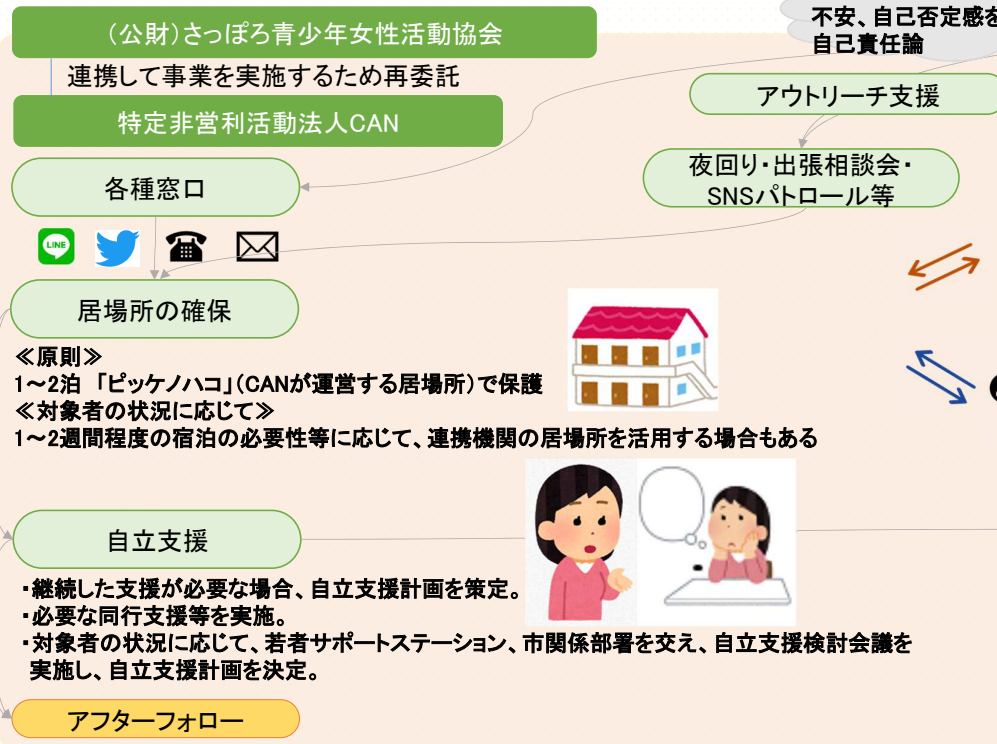
暴力被害や性的搾取を含めた身体的・心理的な被害に遭っている又は遭う可能性のある10代後半から20代の思春期・若年期の女性。

(2) 取組の概要

- ① **アウトリーチ支援**..... SNSを用いた呼びかけや相談、ネットパトロール、繁華街の夜回りを実施し、若年女性に積極的に支援と情報を届ける。
- ② **居場所の確保**..... 落ち着いて今後の生活について相談できるよう、一時的な「安全・安心な居場所」の提供を行い、相談、見守り支援を実施。
- ③ **自立支援**..... 学校や家族との調整、同行支援、就労支援、医療機関との連携による支援など、自立に向けた伴走型の支援を実施。
- ④ **関係機関連携会議**... 行政機関、民間支援団体などによる関係機関連携会議を設置。対象者の抱える問題の状況に応じて関係機関へつなぐ。

5 札幌市困難を抱える若年女性支援事業の概要

【事業受託者】



【対象者】

- ・家庭・家族関係の悩み
- ・虐待、DV
- ・性的搾取、性暴力
- ・望まない妊娠、中絶

困っているという意識がない
不安、自己否定感を持っている
自己責任論

アウトリーチ支援

夜回り・出張相談会・
SNSパトロール等

若年女性支援ネットワーク
「Cloudy」

- ・女性支援団体 ・DV被害者支援団体
- ・ひとり親支援団体
- ・性暴力被害者支援団体 等

さっぽろ子ども・若者支援地域協議会
【関係機関連携会議の位置づけ】

関係機関等による
専門的・継続的な支援

- ・若者支援施設 ・児童相談所
- ・婦人保護施設 ・学校・教育委員会
- ・自立相談支援機関
- ・区役所・保健センター
母子保健・生活保護部門・
家庭児童相談室 等

5 札幌市困難を抱える若年女性支援事業の概要

(3) 連携のために

① シンポジウムの開催

- 2021年7月31日(土)に、事業のスタートアップとして、シンポジウムを開催。
- 大学、男女共同参画センター、NPO、行政がそれぞれの立場から現状や課題について報告し、意見交換を行いました。
- 当日は、約170名の方に視聴していただきました。



5 札幌市困難を抱える若年女性支援事業の概要

(3) 連携のために

② 支援団体との連携

若年女性支援ネットワーク「cloudy」



《主な構成団体》

NPO法人北海道レインボー・リソースセンターL-Port

- ・セクシャルマイノリティの支援団体
- ・セクシャルマイノリティの若者向けLINE相談「にじいろtalk-talk」実施

性暴力被害者支援センター北海道 SACRACH

(NPO法人ゆいねっと北海道)

- ・性暴力被害に遭った女性の支援を実施。
- ・関係機関への付き添い支援を実施

【事務局】

札幌市男女共同参画センター (さっぽろ青少年女性活動協会)

- ・H28年から年2回程度、10代、20代の女性を対象としたLINE相談を実施。



NPO法人 女のスペース・おん

- ・女性の人権相談
- ・暴力被害女性の緊急一時保護等を実施

NPO法人 CAN

(Child Advocate network)

- ・H22年～H31年3月まで自立援助ホーム「シーズ南平岸」を運営。
- ・現在は同ホーム退所者のアフターフォローを実施。

NPO法人 ホームレス支援北海道ネットワーク 女性サポートAsyl

- ・女性の生活困窮者のための相談窓口を運営。
- ・DVや経済的困窮により行き場を失った「ホームレス女性のためのシェルター」を運営

5 札幌市困難を抱える若年女性支援事業の概要

(3) 連携のために

③ 関係機関連携会議

さっぽろ子ども・若者支援地域協議会

札幌少年鑑別所

北海道警察本部 生活安全部少年課

ジョブカフェ北海道 札幌わかものハローワーク

NPO法人北海道フリー スクール等ネットワーク



【事務局】

札幌市若者支援総合センター (さっぽろ青少年女性活動協会)

- ・若者支援施設(Youth+)運営
- ・アウトリーチ支援を目的としたキッチンカーの実施や、居場所「いとこんち」を開設



札幌市関係部署

- ・子どもの権利推進課
- ・児童相談所
- ・保護自立支援課
- ・障がい保健福祉部
- ・雇用推進部
- ・学校教育部
- ・保健所
- ・札幌市引きこもり地域支援センター
- ・札幌市子ども発達総合支援センター
- ・自閉症発達障害支援センター
- ・札幌こころのセンター

課題

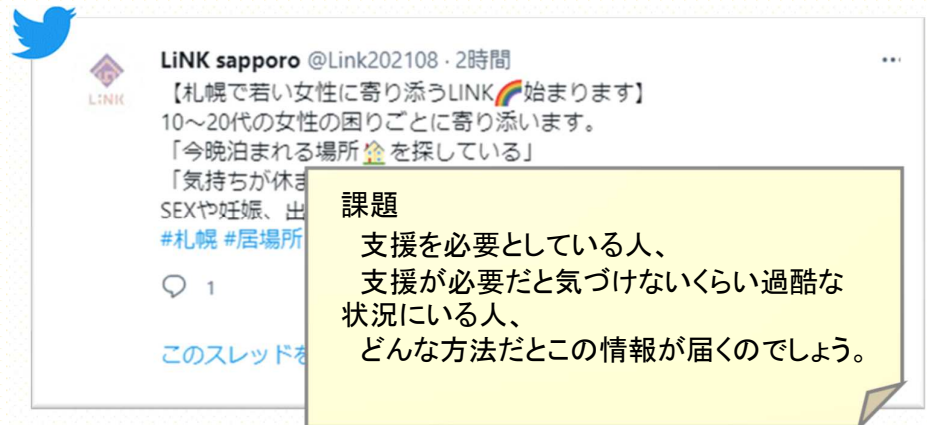
子ども・若者が社会生活を円滑に営むことができるよう支援するための協議会です。
困難を抱える若年女性も若者ですが...

全国
家族

5 札幌市困難を抱える若年女性支援事業の概要



安心してつながれる、
相談できる、関係機
関が連携して必要と
している支援につな
いでいくという想いを
込め「LiNK」という名
前をつけました。



24

6 札幌市困難を抱える若年女性支援事業の実施状況

令和3年8月～12月までの実施状況

■相談人数

相談方法	電話	メール	SNS	面談	訪問	その他	計
相談人数	3	0	36	6	0	0	45

■年齢別相談人数

年齢別	18歳未満	18歳以上 20歳未満	20歳以上 25歳未満	25歳以上 30歳未満	30歳以上	不明	計
相談人数	6	6	8	3	1	21	45

■居場所の提供

	(人)	
短期	2	※20歳以上～25歳未満 2人
長期 (2週間を超える場合)	3	※18歳以上～20歳未満 3人

課題

近隣市町村に住んでいる女性から相談
が来ることもあります。
札幌に住んでいないから、という理由で
断ることはできません。

25

6 札幌市困難を抱える若年女性支援事業の実施状況

(2021年9月25日 北海道新聞朝刊)

(2021年9月28日 北海道新聞朝刊)



札幌・ススキノ地区で若い女性(右)に声をかける夜回り事業(金田翔撮影)

若い女性悩み明かして 札幌市、ススキノ夜回り

札幌市がススキノ地区で若い女性に声をかける夜回り事業を始めた。2021年9月25日、札幌市がススキノ地区で若い女性に声をかける夜回り事業を始めた。2021年9月25日、札幌市がススキノ地区で若い女性に声をかける夜回り事業を始めた。

市が夜回りを始めたのは、2021年9月25日。札幌市がススキノ地区で若い女性に声をかける夜回り事業を始めた。2021年9月25日、札幌市がススキノ地区で若い女性に声をかける夜回り事業を始めた。

2019年6月に札幌市がススキノ地区で若い女性に声をかける夜回り事業を始めた。2021年9月28日、札幌市がススキノ地区で若い女性に声をかける夜回り事業を始めた。



札幌市がススキノ地区で若い女性に声をかける夜回り事業を始めた。2021年9月28日、札幌市がススキノ地区で若い女性に声をかける夜回り事業を始めた。

詩梨ちゃん衰弱死二度と起こすな

札幌市がススキノ地区で若い女性に声をかける夜回り事業を始めた。2021年9月28日、札幌市がススキノ地区で若い女性に声をかける夜回り事業を始めた。

6 札幌市困難を抱える若年女性支援事業の実施状況

(2022年1月3日 毎日新聞朝刊)



札幌市がススキノ地区で若い女性に声をかける夜回り事業を始めた。2022年1月3日、札幌市がススキノ地区で若い女性に声をかける夜回り事業を始めた。

札幌市がススキノ地区で若い女性に声をかける夜回り事業を始めた。2022年1月3日、札幌市がススキノ地区で若い女性に声をかける夜回り事業を始めた。

「見えにくい孤立」に手を

札幌市がススキノ地区で若い女性に声をかける夜回り事業を始めた。2022年1月3日、札幌市がススキノ地区で若い女性に声をかける夜回り事業を始めた。

札幌市がススキノ地区で若い女性に声をかける夜回り事業を始めた。2022年1月3日、札幌市がススキノ地区で若い女性に声をかける夜回り事業を始めた。

SOSホットライン
LINKの相談電話「SOSホットライン」は080・6129・5728（木曜を除く午後4～6時。1月3日は休み）。LINEやツイッターでも相談を受け付けている。

LINE ツイッター

「人のつながりに救われた」

札幌市がススキノ地区で若い女性に声をかける夜回り事業を始めた。2022年1月3日、札幌市がススキノ地区で若い女性に声をかける夜回り事業を始めた。

札幌市がススキノ地区で若い女性に声をかける夜回り事業を始めた。2022年1月3日、札幌市がススキノ地区で若い女性に声をかける夜回り事業を始めた。

大都市だけの問題？

「自分のまちに、そんなく女の子＞はいない。」

誰にも相談できない悩みを抱えることや、暴力や性的な被害に遭う可能性はどこにでもあり、住んでいる場所とは無関係です。

そして、居場所を求めて、都市部に集まってきます。

今はSNSで誰とでも繋がれる時代だからこそ、都市部だけの問題ではありません。

それって自己責任では？

家にお金が無い、居場所が無いことは、彼女たちの責任ではありません。

支援が必要な人に適切な支援を届けることが、行政の役割では。

効果の見えづらい事業ですが、必要としている人は少なくありません。

官民連携の意義

【行政】

税金で、制度をつくって、画一的に大勢を支援する役割
困りごとの見える化⇒世論形成⇒解決策の検討⇒持続可能性の検討
⇒試行実施 ～始めるのは大変だけど、続けるのは得意！～

【NPO】

思いを持って、困っている目の前の人を出来る限り支援する
～始めるのは早いけど、続けるのは大変！～

だからこそ一緒にやる意義がある！

よりそうよ どんなキモチも



今晚だけ泊まれる場所ないかな。
家にいるのがしんどい。
安心して一晩過ごしたい。
ちょっとの間、今の状況から逃げたい。